

日 時 平成30年7月27日(金)

午後2時30分～

場 所 都庁第二本庁舎10階 210・211会議室

葛西臨海水族園のあり方検討会 第5回

会議録

【会議】

午後2時30分～午後4時45分

○小林課長 それでは、予定定刻になりましたので、ただいまより、第5回葛西臨海水族園のあり方検討会を開催させていただきます。

委員の皆様におかれましては、大変お忙しい中、大変お暑い中ご出席を賜りまして、まことにありがとうございます。議事に入りますまでの間、進行を務めさせていただきます、公園緑地部再生計画担当課長小林でございます。本日もどうぞよろしくお願いいたします。

初めに、本検討会は公開にて開催することとさせていただきます。

本日は、傍聴者及び報道関係者の取材がございますことをご了承いただきたく、お願いいたします。

次に、お配りしております資料のご確認をお願いいたします。配付資料は、次第に記載をさせていただきます。

委員の皆様には、議事の途中でご確認いただけるように、これまでの検討会資料をファイルにとじ、机上にご用意してございます。左上に置かれてあります緑色のファイルでございます。不足資料などがございましたら、お手数ですがお声かけ下さいますよう、お願いいたします。

続きまして出席者でございます。本日は、博報堂DYホールディングスCSR推進担当部長の川延昌弘委員は体調がすぐれないとのご連絡をいただきまして、欠席となっております。また、池邊委員は少しおくれるとのご連絡を頂戴してございます。

東京都及び葛西臨海水族園を運営いたします公益財団法人東京動物園協会の出席者につきましては、恐れ入りますがお配りしている座席表にてご確認いただきたく、お願い申し上げます。

それでは、西座長、以降の進行をよろしくお願いいたします。

○西座長 では、ここからは私が進行を務めてさせていただきます。

本日がいよいよ最後の委員会となりました。限られた時間ではありますが、検討会として取りまとめの報告書の内容をしっかりとご検討いただきたいと思います。

本日の報告書案は、これまでのご意見、ご指摘をもとに、事務局で構成などを見直したと聞いています。報告書案について、事務局から説明をお願いします。

○小林課長 ここからは着座にてご説明をさせていただきます。

本日の説明資料ですけれども、報告書案と報告書要旨をご用意させていただきました。まずは、報告書案を第4回からの修正箇所を中心にご説明をさせていただきます。報告書案は、こちらの厚い冊子になってございますので、こちらをごらんいただければと思います。

また、第4回の資料、骨子案でございますけれども、お手元の緑のファイルにつづって

ございますので、適宜ご確認をいただければと思います。

報告書案の表紙をおめくりください。「報告書作成にあたって」としまして、座長コメントの案を掲載してございます。前回から修正又は追加をした部分は、語尾の修正など比較的簡易な修正を除きまして、このように赤字表記とさせていただきます。

報告書は、検討会から東京都に対しましていただく提言となりますので、特に第4章では、語尾ですとか表現の仕方の見直しを行ってございます。

1枚おめくりください。目次でございます。

前回の、報告書としての流れがあまりよくないのご指摘をいただきまして、特に4章の構成を見直してございます。詳細の内容は、本編の中でご説明をさせていただきます。全体としましては1章から4章までとなっております、その後に展示水槽のイメージ（展示基本構想）といったものをもととは4章の中に入れてございましたけれども、4章の後に移動させていただいたりというような見直しをかけてございます。

それでは目次をおめくりいただけますでしょうか。

1ページから6ページまでが1章「葛西臨海水族園について」でございます。

3ページをお開きください。3ページの中段に記載をしてございます当初建設の理念ですけれども、現在どうなっているのかを明確にすべきであるのご指摘がございました。「海と人間の交流の場」という理念は現在も継承されておりますので、その旨がわかるように修正をいたしてございます。1章の修正は、前回からは以上となっております。

続きまして、7ページから14ページの2章「葛西臨海水族園の現状」でございますけれども、2章につきましては、前回から修正している箇所はございません。

続けて、15ページからは3章「葛西臨海水族園を取り巻く社会状況」でございます。まず、3章は序文を削除いたしまして、1章、2章と同じ形式でまとめさせていただきました。

15ページの(1)「持続可能性」でございますが、前回、(1)と(2)、16ページの「生物多様性保全」の記述についてコメントをいただきまして、(2)の「生物多様性保全」はこのまま残させていただいて、(1)持続可能性のSDGsに生物多様性保全が含まれていることがわかるように関連するゴールを記述してはどうかというご意見を頂戴いたしました。そこで、SDGsの17ゴール及び国内の優先課題の一部につきまして、本編の中に記載させていただくというような修正をかけさせていただいてございます。

また、SDGsですけれども、補足資料としまして、後ろに添付をさせていただいております。そちらの補足資料について、ここでご案内をさせていただきます。恐れ入ります。ページが飛びますけれども、41ページをお開きいただけますでしょうか。

41ページの次に、ページ番号がございませんけれども、参考資料のリストを掲載してございます。参考資料の1番、補足資料の中で、補足資料の2番、3番がSDGsに関するものでございます。SDGsの17ゴールにつきましては、参考資料の表紙も含めて2枚おめくりいただきますと、具体的な17ゴールの詳細が掲載をしてございますので、ご

検討いただく際には、こちらもあわせてご利用いただければと思います。

それでは、またちょっとページを戻らせていただきますけれども、続きまして、19ページをごらんください。

(4)「国内の水族館及び動物園の動向等」の②番でございます。「首都圏の主な水族館の比較」の中に、水族館がレクリエーション性能を備えた人気の文化施設である旨と、インバウンド誘致などで観光に活用されている例が多い旨を追記させていただきました。

次の20ページの③番「水族館及び動物園の法的位置づけ」に移らせていただきます。博物館法、都市計画法及び都市公園法、種の保存法を並列に再整理いたしましたとともに、葛西臨海水族園が博物館法では博物館相当施設に指定されていること、都市公園法では葛西臨海公園の公園施設の1つでございます教養施設になっているということを記述させていただきました。

続きまして、次の21、22ページをごらんください。

2「都の施策・動向」の(1)「都民ファーストでつくる『新しい東京』」の3つのシテイのうち、特に関連が深い「ダイバーシティ」と「スマートシティ」の政策の柱を追記させていただきました。

まず、ダイバーシティの政策の柱6「誰もが優しさを感じられるまち」の中で、ハード面の整備に加え、ソフト面のバリアフリー化を進めていくとしてございまして、スマートシティの政策の柱3「豊かな自然環境の創出・保全」では、都立動物園・水族園の再整備を進め、生物多様性保全の拠点としての役割を担っていくという記載をしております。

次に、22ページの(2)番「都立動物園水族園における計画・取組」でございます。まず、22ページと、あと23ページに記載してございますけれども、①番と②番、これが全体の第4回の骨子案では逆に記載をさせていただきましたけれども、こちらを入れかえさせていただきました。基本計画を先の1番とさせていただきます、「計画的な繁殖に向けた取組」というふうにタイトルを変えさせていただきましたが、ズーストック計画を後に配置するというような見直しを行いました。また、都立動物園水族園ですけれども、建設局が所管してございます恩賜上野動物園、多摩動物公園、葛西臨海水族園及び井の頭自然文化園の4園を指しますといったことを追記させていただきました。

23ページをごらんください。②番のタイトルでございますけれども、もともとは「ズーストック計画」とさせていただいてございましたが、「計画的な繁殖に向けた取組」と修正をいたしました。また、現在改定を進めております新ズーストック計画について追記をしております。なお、東京都には、大島に環境局が所管しております大島公園動物園がございまして、ズーストック計画は大島公園動物園を含めた取り組みでございますもので、その旨を記述させていただいたところでございます。

3章の修正は以上になります。

続きまして、25ページをお開きください。4章「葛西臨海水族園の今後のあり方について」でございます。4章はかなり大きく修正をかけさせていただいてございますので、

順にご説明をさせていただきます。

まず、4章には序文を設けさせていただきまして、これまでのご意見に委員の皆様の思いというものも含めるような形で、重視すべきこととしてまとめさせていただきました。

まず、開園当初の目標に対しまして、現在どういう状況にあるかというところを「ほぼ達成してきたと考える」とさせていただきまして、今後はこれまでの実績や技術を活用して一歩進んだ取り組みを行うべきという内容を追記させていただきました。

重視する点でございますけれども、海と人とをつなぐ架け橋として、あらゆる人々に海を知ってもらうための取り組み、体験、活動を進めること。次の、海を知ることは、持続可能な社会の実現に貢献することにつながる。そして、生物多様性を守るための取り組みを進めること。次が、共生社会にふさわしい施設として、ソフト・ハード両面でアクセシビリティを確保すること。そして、葛西の立地・施設のポテンシャルを発揮すること。最後に、都立水族館は国立に代わる水族館として、世界においては日本を、日本においては国内を代表する存在となるべき、の6点を挙げさせていただきました。

また、この25、26ページの中で、事前にいただきましたご指摘の中に「海」というものを少し書き分けをしたほうがよいのではないかとのご指摘がございました。例えば、本当に海洋を指す海と、湖ですとか河川、広い意味の水環境を指すような海というような言葉、2つをうまく使い分けてはいかがとというようなご意見を頂戴したところでございます。

続きまして、27ページをお開きください。1「新たな理念」でございます。

前回は、ミッション、ビジョン、プロミスとして、あるべき姿をご検討いただきましたが、重複する内容を整理して、端的な表現に見直したほうがよいのではないかとのご指摘がございまして、再整理をいたしてございます。その再整理をさせていただく中で、プロミスと、その後の3で記述をしてございます「各機能における取組」とが重複してしまうことが多く、プロミスが入ることでそれぞれの違いが出しにくいということもございましたため、今回新たな理念としまして、ミッション、ビジョンのみでまとめるという修正をさせていただきました。

ただ、これまでの検討会の中では、対外的にわかりやすくお伝えすることが大切とのご指摘をいただいてございまして、プロミスはこのような役割もあるかと理解をしてございました。プロミスとは異なりますけれども、今後のあり方を対外的にお伝えできるように、ポイントとなる内容を要旨として整理をして、報告書とあわせて公表してはいかがと考え、作成をさせていただきましたのが、A3判の報告書要旨という資料でございます。こちらのカラーの資料になります。こちらの要旨の内容及び取り扱いにつきましても、本日ご検討をいただければと思っております。

ミッション、ビジョンにつきましては、類似の内容ですとか情緒的な表現といったものを見直すとともに、極力端的にするため内容を精査させていただきました。

ミッションの2つ目、2点目につきましては、前回ご提案をいただいた内容に修正をして

ございます。ビジョンですけれども、ビジョンは目指すべき将来像としまして、ミッションを果たすため葛西臨海水族園がなすべき取り組みや行動となるように修正をさせていただきました。

次に2番、「今後の葛西臨海水族園に備えるべき機能」に移らせていただきます。

新たな理念をどのように達成するかを機能としてまとめるとさせていただきました上で、機能については、葛西臨海水族園の特色を反映した独自の機能を設定するという形でまとめさせていただきました。

(1)「備えるべき機能」では、前回のご指摘を反映しました6つの機能について、それぞれの役割や関係性を記述してございます。①は調査・研究、②は収集・飼育・繁殖、③は展示・空間演出、④は学習・体験、⑤はレクリエーション、⑥は環境保全への貢献です。なお、③の展示・空間演出は、第4回検討会後にプレゼンテーションとしてもよいのではないかとのご意見もいただいております。

次に、29ページの(2)番「機能の相互関係」でございますけれども、樹木に例えましたイメージ図となってございまして、木に降り注ぐ滴を前回ご指摘いただきましたものを追加させていただきました。

29ページから32ページにかけましては、3「各機能における取組」として、6つの機能ごとにどのような取り組みをすべきかを記述をしてございます。

①番「調査・研究」は、前回のご指摘を踏まえまして、重要な点がわかりやすくなるように、言い回しの修正を行ってございます。29ページの一番下の行では、ネットワークを大切にすべきこと、次の30ページ上段でございすけれども、研究の裾野を広げる取り組みや活動で科学の世界に貢献すべきといったことを記述させていただきました。

30ページの③「展示・空間演出」でございますけれども、最初に海の大きさ、豊かさ、美しさを追記させていただきました。

次に、31ページをお開きください。④「学習・体験」は、前回のご指摘を踏まえまして、3つ目の言い回しを修正してございます。「双方向コミュニケーション」という表現を前回使ってございましたけれども、「人と人とのコミュニケーションを重視した」と改めさせていただきます。

⑥番「環境保全への貢献」の32ページ、上段をごらんください。2つ目は、前はプロミスの中に記述をしておりました内容でございます。環境保全への貢献という機能の取り組みに移させていただきました。3つ目は、「組織・団体等と有機的に連携すべき」というような文言に修正をさせていただきます。

続きまして4「運営について」は、32ページ、33ページでございます。(1)から(4)のタイトルを、「〇〇の視点」のように統一をさせていただきました。

33ページをごらんください。(4)「経営の視点」の3点目、利用料金の記載の中に、前回記述漏れのごございました学校教育等で利用しやすい現行の料金設定を踏まえるという内容を追記してございます。

続いて、5「施設について」は、33ページ、34ページでございます。

(1)「誰もが使いやすく魅力的な施設」のうち、34ページの3つ目、4つ目になりま
すけれども、こちらと、あと(2)「機能を発揮させるための性能」とさせていただきまし
たこのタイトルを、それぞれ言い回しを見直すという修正をさせていただきました。

35ページをごらんください。6「新たな水族園の実現に向けて」としまして、これま
でに委員の皆様から頂戴したご意見、ご指摘を5点で整理をさせていただきました。

1点目は、新たな理念の実現には、長期的な取り組みや活動ができる施設として、水族
館のメッセージを表現する展示・空間演出の刷新を図るべきであること。2点目には、将
来を見据えた持続的な施設として再生するには、建てかえにより整備すべきであること。
3点目には、新たな水族園の整備には、アクセシビリティが確保できるアプローチを検討
すべきで、葛西臨海公園のデザイン等をリニューアルすることが望ましいということ。4
点目は、現在の建物は、水族館以外の利活用の可能性を検討することが考えられるとい
うことを記載してございます。そして、5点目に、基本計画等の策定にあたっては、現在の
葛西臨海水族園の運営者、関係者の意見を参考に検討すべきであることを記述いたしまし
た。

次に、36ページから40ページでございますけれども、「展示水槽のイメージ」でござ
います。前回の展示基本構想を4章とは別で、参考のような構成で整理をさせていただき
ました。内容につきましては、大きな変更点はございません。

少しページが飛びますけれども、41ページをごらんください。「おわりに」としまして、
委員の皆様のご意見をまとめさせていただきました。まず、4章の今後のあり方につきま
しては、博物館相当施設で、葛西臨海公園の公園施設でもございます現在の葛西臨海水族
園を念頭に取りまとめていただきましたが、より発展した水族館となることに期待される
ご意見もございました。こうしたご意見を「おわりに」としてまとめさせていただいた
いうものでございます。

以降は、参考資料としまして、補足資料を1から11まで、この1から11までは、第
1回から第3回までの間でお出しをさせていただきました資料をそのままおつけをしてご
ざいます。また、検討会委員名簿、そして検討の経緯をおつけしてございます。報告書は、
参考資料を含めました一式で取りまとめたいというふうに考えてございます。

以上、大変雑駁ではございますが、説明を終わらせていただきます。

○西座長 どうもありがとうございました。

それでは、いろいろあって、盛りだくさんで時間内におさまるかどうかわからないので
すが、内容の検討に入らせていただきます。

本日の検討の中心は第4章になるかと思いますが、まずは、第1から第3章まで、1か
ら24ページまでについての意見をお伺いしたいと思います。特に、15ページからの3
章は、前回の指摘を受けていろいろと修正されています。修正箇所のほか、この箇所はこ
のように書いた方がよい、この内容が抜けているなど、具体的にご意見をいただきたいの

ですが、いかがでしょうか。

前回同様、特に順番にご意見いただくということなしに、気がついた方からご意見をいただくということで進めたいと思います。よろしくお願いします。

第3章は、SDGsのところあたりが、順番を変えたりとか詳しく書いていただいたので、かなりわかりやすくなったのではないかなと思いますが、いかがでしょうか。

○海津委員 とても簡単な質問だと思うのですが、7ページのところの(1)の①のところの国内種のところの「都内産両生類」と書いてある表記があるのですが、これはこういう書き方で正解かという確認です。生物のことはよくわからないのですが。

○西座長 どうしますかね。これは、現役の方に答えてもらうほうがいいのか。

都内産の両生類は、イモリとかカエルだとかそういうものなので、それで間違いないですか。

○海津委員 こういう言い方をするかという。

○小林課長 今、ご指摘いただきました点、もう少しわかりやすく書ければそのほうがよろしいかと思っておりますので、中でもう1回確認をとらせていただければと思います。

○佐藤委員 恐らく、特定の種が書けるものなら書いたほうがいいだろうと思っておりますので、当然都内に産する両生類の中で絶滅危惧種であるものは多々あると思っておりますので、できれば具体的に書いていただければ、今のようなご疑問が出ないのではないかと思います。

よろしければ、もう1点よろしいでしょうか。気になったのが、22ページなのでございますが、都の施策・動向についてのまとめなので、用語やなんかに制限があることは存じているつもりであえて申し上げますが、22ページのスマートシティの政策の柱の部分で、「希少動物の保護繁殖や調査研究機能等と併せて、展示を通じた環境学習も」というふうな表現になっていると、これは環境学習は明らかにつけ足しの表現になっていて、これがもうちょっと、もし可能であれば、要するに表現の訂正が許されるのであれば、これは「環境教育を強化し」だろうと思ったり、「と併せて」でもないだろうと思ったり。

つまり、恐らく希少動物の保護繁殖、調査研究、そして、展示を通じた環境教育というのが3つの柱に見えるように記載していただけることが可能であれば、そうしていただきたいと思っております。

○小林課長 今のご指摘ですけれども、実は、実行プランの中に書かれております文言を一部割愛して記載をさせていただきました。と環境教育ではなく、今は環境学習というふうに、実行プラン上は記載をさせていただきます。

ただ、この内容が「調査研究機能等と併せて、展示を通じた」と今しているのですが、実は間にもう少し記載がございまして、省かずに丁寧に全てを書いてしまうほうがもしかしたらよろしいのかなという感じもいたしましたので、こちらについても修正をかけさせていただきます。

○西座長 3本の柱ということをはっきりわかるような表現にするということですね。

○佐藤委員 ぜひ、そうして。結果として、環境教育はつけ足しだったというのはあまり

うれしくないので、ぜひご検討いただければと思います。

○西座長 ほかに。はい、どうぞ。

○鳩貝委員 小さなことなのですが、18ページの図の中の真ん中のところで、「爬虫類と両性類」と書いてあるのですが、両生類の「生」が。

○西座長 「生」が違っているのだな。

○千葉委員 校正ばかりで済みません。A3の大きいやつで、カラーのものです。「運営について」という左下、「利用者増加の視点」というところで、「○」の下、「水族館でしかできない体験を」ではなくて、「体験の提供によるインバウンド誘致」ではないかなと思います。

○西座長 今のところ、もう一度。どこでしたか。

○千葉委員 「運営について」という左下でございます。「利用者増加の視点」、「○」が幾つかございまして、「水族館でしかできない体験の提供によるインバウンド誘致」かなというふうに思います。

このままお時間もないでしょうから、私の意見を先に述べさせていただきます。

現状ということで、10ページ目には、「ユニークベニュー」とか「広報戦略」というふうな文言が出ておられるのですけれども、今後のあり方についてという25ページ、26ページにいきますと、ユニークベニューや広報戦略という部分が、さらにつけ足してということなのでしょうけれども、外れてしまっているというのが、もしあれでしたら盛り込まれたほうがよろしいのではないかなというふうに思いました。

あとは、アクセスシビリティだとかの言葉の統一で、非常によろしいのかなというふうには思ったのですけれども、以上です。

○西座長 今のは、25ページの「今後のあり方」のほうにその言葉をしっかりと入れていくと。

○千葉委員 入れたほうがよろしいのかしらと思いました。

○西座長 それは、ぜひ入れたほうが具体的になるかと思しますので。

ほかはいかがでしょうか。

○海津委員 3点ほどありまして、また重箱の隅程度で申しわけないのですけれども、1点目は、15ページのところで、SDGs 17ゴールの中ということで追記されているところなのですけれども、後半の参考資料を拝見すると目標という言葉は出てきますけれども、ゴールというのは使われていないのですね。上のほうの、冒頭の15ページで、「ゴール（目標）」と書いてあるのですけれども、あえて「ゴール」という言葉を使わずに、「17目標」でよくて、囲いの中もゴールではなくて「17目標」という形で統一されてもよいかと思います。それが1点目でした。

もう1つが、25ページのところで、①から書かれているのですけれども、語尾が微妙に「ほしい」、「期待される」、「重要である」、「大切である」、「べきである」と、書き分けをされているのですね。何か意図があるのであれば教えていただきたいなということ、こ

れが2点目となります。

○西座長 今、どこですか。

○海津委員 25ページ。第4章のところの。

○西座長 第4章ちょっとまだ後で、第3章までで。

○木下副座長 1章、2章、3章は、歴史、現状、背景ということで、うまくまとまっているのではないかと思います。その上で、やはり現状の分析、評価が一番重要だと思えますので、14ページの図をもう少し効果的に使ったほうがいいと思うのですね。

ここは、図と写真の関係もちょっとよくわからないのと、下の2枚の写真はもうちょっと、もっとひどい写真を載せたほうがいいのではないですか。ひどいというか、現状を伝えるような。これだけだと、ただ人が並んでいるだけにしか見えないので。ということで、ここあたりが結局非常に重要な問題を提起することになると思いますので。

○西座長 こういう写真というのは、わかっている人はわかるのだけれども、わからない人が見たら何かわからないというところがあるから、もう少し検討していただくか、写真がなければ言葉で説明をわかるように足していただくとか。

○木下副座長 例えば、真ん中の図はイラストと写真がありますが、図のほうは赤い破線で囲ってあることの意味というのがもう1つよくわからないのと、右の写真との対応関係もよくわからない。だから、これは、きちんと図と写真を対応させるような、効果的なものを選んだほうがいいと思います。

○佐藤委員 今の点で1つよろしいでしょうか。これ、図にタイトルを入れて定義なさせたほうがいいのではないかという気がいたします。上の2つの図は明らかに施設管理上の問題点の写真であり、下の図はバリアフリーに関する問題点なので、そのタイトルを入れていただくと、何についての問題をこの図であらわそうとしているかというのがわかりやすくなると思います。

○小林委員 私も3章が大変わかりやすくなったと思います。前回気がつかずに今さらに恐縮なのですが、私もここでまず現状の課題をはっきりしたほうがいいかなと思っておりまして。7ページから4つの機能について、さまざまな現状と課題の分析がされているのですが、それぞれの項目で「・」がある中の一番最後の「・」が、これからやるべきこと、何が課題かということが明らかになっているのですが、それ以前のところが現状分析なので、最後の「・」について下線を引くとか、何かちょっと違う見え方をすると課題がわかりやすくなるかなというふうに思いました。

○西座長 ありがとうございます。

第3章まではほぼよろしいでしょうか。では、またお気づきになったらあれしていただいて、では、本題のほうで、第4章に入らせていただきます。

4章の冒頭に委員の思いを書きましようということになり、これまでの委員意見を事務局で整理し、重視することがまとめられています。27ページに新たな理念としてミッション、ビジョンが、今までよりシンプルに整理されているようです。その後、備えるべ

き機能、各機能における取り組み、運営、施設、新たな水族園の実現に向けてとまとめられています。最後に、展示水槽のイメージを示すという構成になっています。

4章から展示水槽のイメージまでのご意見をいただきたいと思います。それから、報告書要旨、「おわりに」として整理されている検討会委員意見を含め、お気づきの点を自由にご発言いただければありがたいです。たくさんありますが、よろしく願います。

○佐藤委員 1つ提案ですけれども、これ非常に多岐にわたるので、少し区切って説明したほうがよろしいのではないかという気がいたしますが。付せんをつけていたら、山のように入ってしまったので。

○西座長 では、まず25ページ、26ページのあり方について、意見の委員をまとめたところでいかがでしょうか。

海について、先ほど使い分けというのが事務局のほうからちょっとありましたけれども、私のほうで、この委員会でも海にかかわる言葉はないのかとか、単に海を言っているだけではないということがあったので、そのことをどこかで最初にイメージしておくほうがいいだろうという気がしたのです。ですから、最初のほうで海ということを書いて、括弧して、単に海だけではなくて、湖や河川なども含む水の世界を指すとか、そういうことを書いて。それから、中に出てくるときに、海洋を明らかに示しているときは括弧つきの海にするとかなんかで書き分けるとかすれば、そういう意味がわかるのではないかと思うのですが。よろしいでしょうか。

では、ほかにご意見。どうぞ。

○佐藤委員 これ委員の思いということなので、気になったことが、1番と2番なのです。

①と②で、「知る」とか「知識」というのがあまりにも強調されているような気がして、知ることは大事なのですが、知ったイコール何かの結果として社会が変わるとかいったことではない、その間には大きなギャップがあるというのは私たちがよく知っていることです。

例えば、1番、「あらゆる人に海を知ってもらうための取組、体験、活動」とあるのですが、知るだけではないですね。これ、海と知った上でさまざまなかわりを持ち、何らかのアクションを通していくための体験といったものが必要なわけであるから、あらゆる人々に、例えば海と触れ合ってもらおうというのも気持ち悪いですが、「海と触れ合うための取組、体験、活動を進めてほしい」というような話ではなかろうかと思います。それを通じて知識も当然深まっていくわけですね。

ですから、2行目の「海を知る」というのも要らないだろうと思います。

それから、②番で、これもやはり因果関係が短絡していて、海を知ると持続可能な社会が実現するということにはなりませんので。恐らくこれは、2番は、水族館は持続可能な社会の実現に貢献してほしいのだという思いだったという気がするのですよ。その前に、前提として何かを知らなさいということにはなかったと思います、私たちの思いとしては。

ですので、これはぜひストレートに、水族園は、持続可能な社会の実現に貢献するもの

であってほしいという思いを語りたいというふうに思います。

○西座長 いろいろと文章をきれいにしようとしているところで。

○佐藤委員 つながりをつくろうとしたというのはよくわかるのですが。

○西座長 なくしたのではないかなと思うので、もう一度原点に戻って、熱い思いが伝わるようにお願いします。よろしいでしょうか。

○池邊委員 おくれてきて申しわけございません。25、26ページのところの、③のところなのですが、生物多様性のところの取り組みが非常に一般的な表記にとどまり過ぎているので、今回海洋の生物多様性について、我々が植物やなんかの生態系に比べて全く知られていないということを前提に、せっかく葛西臨海の場合には生態系展示というところに重視を置いているので、そのあたりの表記を③のところに、「生物多様性を守る」というところに、海洋の生態系というようなことを少し入れ込んではいかがでしょうかと思います。

それからもう1つ、⑤のほうで、立地のところで、観光拠点としての魅力も備えているということで、「立地・施設のポテンシャルを発揮することも重要である」ということが書いてあるのですが、ここにやはり公園があるということが書かれていないので、さっき私も前半おくれてきましたので言わなかったのですが、さっきの課題のところの施設面のところなのか、あるいは老朽化とかということに入れるのかわからないのですが、公園と水族館の連携がとれていないとか、公園にそういう部分を付加することが必要であるということの問題点と課題のところに入れ込むとともに、今後のあり方について、もっと連携を持った公園にすることによって魅力を高めるということをぜひ入れておきたいと思います。

ここについては、多分費用面もあると思いますので、そっちの件をそのままではなくて、公園面のところにもやはり再生の費用を予算をぜひ充てていただきたいと思いますので、あえて表記をお願いいたします。

○西座長 ありがとうございます。ほかに。

○木下副座長 先ほど既にご意見が出ていますが、それぞれの語尾をどうするのかということを検討すべきだと思いますね。「ほしい」とか、「重要である」「大切である」「すべきである」、大分幅が飛びますので、例えば「すべきだ」というので統一していくのか、その辺はここで意見を一応統一しておいたほうがいいかなというふうに思います。

それから、私が思ったのは、5番の「葛西臨海水族園が立地する葛西は東京湾の中心に位置し、陸・川と海をつなぐ絶好の場所である」というのは、もっとこの議論の中で重視してきた問題だったように思うのですね。それは東京のあの場所にあると。それは、陸と海をつなぎ、さらに海洋につながっていくという意味なので、これは1で言う「海と人をつなぐ架け橋」というところにむしろ近いというふうに思うのですね。

ただし、5番で言っていることは、これ2つのことを言っていて、臨海であるということと、それから、水族館そのもののポテンシャル、これ両方一緒に言ってしまうので、ここをもうちょっと整理できそうな気がします。

ですから、改めて考えると、臨海という名称を生かすのか、今後も場所は変わらないわけですから、この言葉を名称に掲げ続けていくのであれば、臨海であるということをもう少し強調するというか、特性として語ってもいいのかなというふうに思いました。

それから、26ページの最後の部分ですが、下から5行分は、これは切り離して、⑥から切り離して、その後に1行あけたほうがいいと思います。

あとはどうでしょう。1から6までの順番がこれでいいのかどうかということも、少し考えてみたほうがいいかなと思います。

○西座長 まず、語尾ですけれども、多少は強い弱いがある、絶対すべきであるというのと、こうやってほしいというのがあるのではないかなと思うのですけれども、いかがでしょうか。それぞれの立場で、「いや、全部それすべきだ」ということになるのであればいいのですが。

○木下副座長 これ冒頭のところで、今後は一歩進んだ取り組みを行うべきであると最初に断定しているから、あと個別に書いているので、もちろんそのニュアンスが少し違っていいかなと。最初に「すべきだ」と言っていますので。

○西座長 ですから、語尾がこれでいいかどうかですね。

○木下副座長 活動を進めてほしいだと、ちょっと弱いかなという感じはするのですが。

○千葉委員 恐らく、ここはストーリー性ができるような気がしておりまして、①番は「海と人をつなぐ架け橋」と、先ほど先生が「臨海」という言葉にこだわられました。私がこだわったのは、この⑤番の26ページの上なのですけれども、さらに2行目「水族館の幻想的な空間を生かした新たな体験等」とありますけれども、観光拠点、観光としてはやはり「体験と交流」とよく言うのですね。「交流」という言葉が非常に少なく、恐らく片仮名文字になっているからで、31ページのほうに「コミュニケーションを重視した」というのが赤字で入ってございますけれども、これコミュニケーションは（交流）だと思うのですね。

そうしますと、ここの26ページの2行目に戻りまして、「新たな体験や交流の場づくりなども考えられる」というふうな表現のほうが、恐らく観光資源、観光拠点としてはふさわしいのかなという印象を受けているのです。

そうしますと、そういった海と人をつないでいたりとか、川と海がつながっていたりとかというのが、この交流というふうな部分とリンクするのかしらというふうに思った次第でございます。

○西座長 その「新たな体験等」ではなくて。

○千葉委員 体験や交流の場づくり。

○西座長 それこそ、「も」ではなくて、「が」ぐらいのほうがいい感じ、いいですね。

○木下副座長 先ほどのことをちょっと補足しますが、「陸・川と海をつなぐ絶好の場所」という表現を⑤でしていますが、36ページのところで、水槽を検討する前提ということで、「葛西を川（淡水）と海（海水）の結節点」と、もっとこれ明確にここを性格づけてい

るのですよね。淡水と海水というのも、この前の今後のあり方のところで、結節点という言い方で出すとイメージがもっと明確になるように思いますので、これを使ってもいいのではないかなと思います。

○西座長 この表現をこちらで生かすということで。

ほかには、この25、26でいかがでしょうか。

○海津委員 25、26の位置づけをずっと考えながら悩んでいたのですけれども、恐らくここは3章までに挙がってきているさまざまな現状と課題を踏まえて、一旦ここで整理をし、そして27ページからの理念や機能といったところに落とし込んでいくつなぎの役割を果たすだろうと思うのですね。

3章のところまでのことで、なぜここでリニューアルをしなければいけないのかということが、最後に一旦整理されている、ないしはこの4章の冒頭でもう1回おさらいをしておく。そこに踏み込むべき視点ということで、①からという形でつながって、27ページからというふうに流れていくのがよいだろうと思うのですけれども、そのところでいくと、25、26が我々の思いというか、願いが書かれているので、この構成上すごく不安定なものになっているかなという気がしております。

願いは願いとしてまとめることは必要なのですけれども、そこにリニューアル、必然的な根拠となる課題というものが、だったら先に整理されておくということが必要かなと思います。それが1つです。

それから、①から⑥を見ますと、先ほどからご指摘がいろいろあるように、非常に空間的なグローバルな視点と、この水族館が果たす、将来への持続可能な社会づくりへの時間的なグローバルな位置づけというもの、これが多分2番とか3番だと思いますけれども、そういうものが今ちょっと混在している。そして、4番のアクセシビリティは手法というか、技術的なことなので、これが間に入っていると、やはり一旦ここで切れてしまうかなという気がしますので、そのあたりもどういう順番がいいと明確に今言えないのですけれども、大きなところから個別に入っていくというふうな位置づけで、並びかえは必要かなと思います。

ちょっと抽象的な指摘になってしまって申しわけないのですけれども。

○西座長 もう一度、今のご指摘を受けて、順番を先ほどから出ているので検討していただくということよろしいですか。

○小林課長 今、ご意見をいただいております、大きいことから小さい個別のことに入っていくということは承知をしたのですけれども、一番最初に何を持ってくるかというところがかなり事務局でも悩みがございまして、そこを据えないとどうしてもいろいろ動いてしまうというのがございましたので、一番最初に何を持ってきてというところのご検討をもう少しお願いできないかと思うのですが。

○西座長 今のあれだと、4番を少し検討すれば、1番、2番はこのままでいかがでしょうか。

○木下副座長 今おっしゃった一番最初って、①の前ですか、①の前段、①。①の前が、今もご指摘があったように、せつかく前のところで課題が浮き彫りになったのだけれども、ここ課題には全く触れていないですよ。 「ほぼ達成してきた」と、今後はさらに一歩進んでというような展開だから、これ前文に当たるところなのだけれども、もう少し何か、1から3章までの議論をここに反映させてもいいのかなというふうには思いました。

○佐藤委員 1つ提案ですけれども、①に入る前の段階で、1つは今までの目標はある程度達成してきたと考えられるのだけれども、水族館を取り巻く社会的な状況というのが大きく変わりつつあり、求められるものも大きく変わってきたと。プラス、現状の水族館にはさまざまな施設運営上、あるいはバリアフリー上の課題があり、新しい時代に明らかにそぐわないものになっているといったことが入って、これが言ってみれば3章までのまとめに相当する部分で、したがって、今後、以下の点に重視ながらというふうな形でつなげれば、かなりクリアになる。海津先生の今のご指摘には十分応えられるのではないかと思いますけれども、いかがでしょうか。

○西座長 その方向でよろしいですか。一遍そういうので、やったことあったのだよね。いいですか、今の方向で。

○小林課長 そうしますと、1章から3章までの具体的な部分というか、求められたような形、施設についてもこういう課題があるといったところを少し前文の中に入れさせていただいて、それで、今後はもっと一歩進めるべき課題で差し換えさせていただくことでよろしいでしょうか。

○西座長 細かいところですけども、25ページの一番最初の「・葛西臨海水族園は」というのは、これは今までの水族園だから、「1989年に開館した葛西臨海水族園は」とやっておくほうが、読む人はわかりやすいのではないかなと思います。

いかがでしょうか。ほぼ出ましたかね。よろしいですかね。また課題がたくさん出ましたけれども、ここまで来ればもう一息ですから、頑張ってください。

では、次のミッション、ビジョンのほうで。これはどうしますかね。27から31ページあたりまでですかね。それとも35ページまで全部行ってしまうか。大きな3番まで、「運営について」の前までをまずひとくくりで、ミッション、ビジョンと機能があるかと思えますので、ご意見いただきたいと思えます。

○佐藤委員 ミッションとビジョンのところに関して、ここに付け加えるべきか迷うところですけども、この将来像を実現するために、やはりこれはまさに公的な水族館ではこういったものは実現不可能という表現がどこかにあってもいいのではないかという気がするのです。つまり、非常に長期的かつ継続的な取り組みを続けていくことがこの葛西臨海水族園が抱えたミッションやビジョンの達成には必要不可欠であり、そこに東京都が責任を持って取り組むべきだという、そういう主張がどこかに欲しいという気がいたしまして。というか、これこそまさに公的な水族館でなければ果たしにくい1つの機能ではないかと思えますので、ここがいいのか、ほかのところに書くべきかというのはよくわからないの

ですが、少なくともミッションやビジョンを達成するためには、行政機関がきちんと中心となって長期的にこの水族館というものを運営していくことが必要不可欠であるという主張が要るのではないかという気がしております。

○西座長 それは、35ページの「実現に向けて」のところで、ミッション、ビジョンとはちょっと違うと思うのですよね、今言われたのは。ミッション、ビジョンをずっと継続していくために、公立の、都立の水族園であることが必要であるということですよ。

○佐藤委員 おっしゃるとおりです。ここが一番いいですね。ですので、ここに今、長期的な活動や取り組みがという話をしているところに、まさに都がやるべきだという主張を入れたらいいのではないかという気がいたします。

○木下副座長 文言に関してなのですけども、目次を見ていただけますか。第4章のタイトルが「葛西臨海水族園の今後のあり方について」で、「新たな理念」。したがって、この2の、これは繰り返す必要はないと思うのですね。「新たな理念」に対して「備えるべき機能」となると思うのですよ。そうすると、次の両括弧の「備えるべき機能」とダブってしまうので、ここは、例えば「6つの機能」とか、整理したほうがいいと思うのですね。3が今度は「各機能における取組」、4の「運営について」。「運営」でいいと思いますし、5も「施設」だけでいいのではないかなと思います。

○西座長 2だけがちょっと長いということですね。

○木下副座長 そうですね。繰り返しになっているので、「備えるべき機能」でいいのではないかなというふうに思いますので、この辺のタイトルの整理が必要だと思います。

○西座長 よろしいでしょうか。

ほかに。

○池邊委員 細かいところで恐縮なのですが、28ページの「展示・空間演出」というところで、空間演出の説明が「多様な水槽形状や、水槽を展示する」ということだけになっていて、多分空間演出が必要なのは、30ページにあるような、美しさであったり、生き物に関連する人の営みや文化等を伝えるということにあると思うので、ここは海の文化や営みを含めた、美しく書くかどうかわからないですけども、「複合的な空間とするために」とか、何かそういうふうにしないとフィジカルな展示水槽の形状と水槽展示というだけにとどまって見えてしまうので、空間演出をわざわざ入れた意図が、30ページを見るとわかるのですが、ここにはないので、そこら辺をちょっと修正していただければと思います。

○小林委員 ここで、これまで言われてきた4つの機能を全く整理し直して6つの機能にしたということがものすごく画期的な提言ではないかと思っております。それにしても、27ページの2の「今後の葛西臨海水族園に備えるべき機能」と言って、2つの「・」で書かれていることがあまり華々しく感じられない気がしております。従前言われてきた水族園の4つの機能を全く整理し直して、ここで葛西臨海水族園の特色を反映した独自の機能を6つ新たに設定したということのを端的にここでは言ってあげたほうが、非常に目を引

くことになるかなと。この機能をしっかりと訴えることが、その後のやるべきことに伝わるかなと思うので、ここは「・」の部分について少し簡潔に整理をし直していただければと思います。

○西座長 そうですね。これが新たな始まりになるわけだからね。

○鳩貝委員 どういうふうに表現していいかわからないのですが、今申しあげましたように、私もこの6つに整理されたというのは、これはすばらしく画期的なことだなと思って、これからこれが博物館とか動物園、水族館の皆さんの中にどんどん浸透していくといいなというふうに思いました。

4のところの「学習・体験」なのですけれども、2つ目の「・」で、「学校教育に限らずあらゆる機会の学びにつながる」ということも書いてあるのですが、これを何かこう生涯学習かそういう文言を入れて使えないのかなというふうに思いながら、どういうふうに書いていいのか悩んでおります。

それから、次の「・」のところ、「学習・体験は、利用者が目を引く形で」という、この表現がどうもしっくりしないなということで。では、「何て言うの」と言われても、提案しろと言われても困るのですけれども、読んでいてそこを感じている。

それと、⑥のところ、下の2行なのですが、「持続可能」という言葉が3つつながるのですね。読んでいて、どうもひっかかってくるので、ここのところも何かうまく表現できないかなという、ただ単にお願いで申しわけないのですけれども、そんなふうに。

○西座長 「目を引く」というのは、花に例えたので、そのところ。もうちょっとこう。

○鳩貝委員 何かいい方法がないかなと思って。

○西座長 今の「学習・体験」なのですけれども、例えば、2つ目の「・」で「葛西臨海水族園では、学校教育に限らずあらゆる機会の学びにつながるプログラムや体験を実施しており」と、「体験を実施する」というのは、言葉としておかしいかなと思います。体験活動とか何かそういうふうにして、学習と体験というのも何か違和感があるので、「学習と体験活動」というような形にしたらいかがかなと思うのですけれども。

ほかにはいかがでしょうか。

○小林委員 今の「利用者が目を引く形」って、私もすごく実はひっかかっておりまして申し上げようかなと思っていたところで。単純に申し上げると「学習・体験」は利用者に直接メッセージを発信する機能になる。「レクリエーション」のところも、利用者に直接メッセージを発信する機能であるというぐらいでもいいのかなと思うのですけれども、いかがでしょうか。

それともう1つ、③の「展示・空間演出」のところ、赤文字になっているところ、「更に展示には、多様な水槽形状や、水槽を展示する空間演出も重要であることから、展示・空間演出という機能とする」と。これは何かこなれないなという気がして、「これまでの展示の機能に加えて空間演出を明記する」とか、そのぐらいにしておいたほうがよろしいのかなと思うのですけれども、いかがでしょうか。

○西座長 おっしゃるとおりだと思います。

○千葉委員 ④番の「学習・体験」、先ほど活動と先生がおっしゃいましたけれども、よく観光客は体験プログラムというのを水族園などで、体験プログラムに参加するという言い方をします。ですから、「ここ葛西臨海水族園では、例えば、生涯学習やさまざまな体験プログラムを実施しており」だとか、そういうふうな流れのほうがきれいかなと思いました。

○佐藤委員 今の議論の続きで言いますと、恐らくここの重要な水族館の機能とする機能の部分というのは学習や体験プログラムを提供する機能ですよね。だから、「提供する」という動詞が入るとすっきりする感じがいたします。

それから、先ほどご議論にあった「持続可能」が3つ続く気味悪さですけれども、ここ今少し問題だなと思うのは、持続可能な調達が管理運営面に入っているのですけれども、これは例えば展示にも直結した話でして、展示生物をどこから調達してくるかという非常に重要な側面を含んでおりますので、ここであえてこれは述べる必要はないだろうなと思います。だから、「希少種等の保全に加え、管理運営面においても」というのも要らなくて、「地球温暖化対策や、海の恵みが持続可能な形で使えるような取り組みを行い、持続可能な社会の実現に貢献する」というふうに直すと、非常にすっきりすると思います。

○西座長 もう一度、済みません。

○佐藤委員 「管理運営面において」はとってしましまして、「地球温暖化対策や、海の恵みが持続可能な形で使えるための取り組みを行い、持続可能な社会の実現に貢献する」ことが期待されるは弱過ぎると思います。いわゆる「貢献すべきである」がいいのではないかと思います。

それから、「持続可能な調達」に関してはむしろ、この次に出てくる細分化された説明のところでもうちょっと詳しく述べる必要があるのではないかと思いますので、これは後でまたコメントいたします。

○木下副座長 先ほどから、この①から⑥までを樹木に例えているのが本当に対応しているかというのをいろいろ考えていたのですけれども、かなり無理して書いているとは思いますが、もう厳密に対応させなくてもいいのではないかという気もするのですね。

次のページに図があって、その横に書かれていますので、あえて文章でそれぞれ幹に例えるとか、葉に例えることまで書かなくてもいいような気がします。

最初の根、幹、葉ぐらいまではいいと思うのだけれども、花がなかなか難しいのですよ。実はその成果ということで、環境保全への貢献という、そういう意識がつけられていくという意味では成果でいいと思うのだけれども、でも、そうすると水族園の成果ってそれだけなのと思ってしまいますよね。

例えば、学習体験をプログラムの提供というふうにすれば、明確に発信だから、それでも花だけではないだろうというふう思うのだけれども、それはいいと。だけれども、レクリエーションに関していうと、これをレクリエーションということでもう1回考えようと思えば、これは成果なのかなというふうにも思うのですよね。決してレクリエーションを水

族園が発信しているわけではないから、その利用者が受けとめて、環境保全という問題だけではなくて、人間を回復していくみたいなの、そういう成果が得られるのであればもう十分に実だと思いますので。

この図の横に添えるぐらいでいいのではないですかね。あまり厳密に対応させようとすると、ちょっと無理が生じてしまうと。幾らやっても無理だという気がします。

○西座長 今おっしゃるように、レクリエーションも実でいいのではないかと。

○木下副座長 花の扱いが難しい。

○西座長 花の扱いが難しいですね。本当は、こんなことを言っただけだけれども、展示ですよ、花はね。

○池邊委員 そうですよ。

○西座長 そこがなかなか難しい。

○千葉委員 お花こそ観光という言葉に、見せていますので、かなと思うのですが。観光がどうしても、観光拠点とかそういう言い方、文化施設とかというふうになっておりまして、とはいえ、世界から観光客が見に来るというふうなところにどこか言及するのがいいのかなと。

話が変わりますが、28ページのほうで、「レクリエーション」、⑤番のところなのですが、「Recreation」と先ほどお話がありましたけれども、この「回復」とか「再創造」というところに、「回復」「再生」や「再創造」と捉えるという、「再生」みたいな言葉が読みかえとして必要なのかなというふうには思いました。再生させるということに対して、今、アンチエイジング的なものが非常に注目されているところもあるので、その言葉を、もっと身近な言葉に変えたほうがよろしいのかなと思いました。

○佐藤委員 今の議論を聞いていて、この図がおもしろいなと改めて思いましたけれども。結局「・」で書いているものが全部余計なのではないでしょうかね。つまり、いちいち能書きを書く必要はなくて、この「・」をとってしまって、先ほど来の説明のほうで述べられたことが、タイトルとして「根」は「調査・研究」であり、「幹」はこれであり、「葉」は「展示・空間演出」で、「花」に関して、今のご意見のように僕もやはり「学習・体験、レクシエーション」に「観光」が乗ったほうがはるかにいいだろうと思いますので、そういうセットにして、最終的にはこれ、恐らく環境保全だけではなくて、持続可能な社会への貢献まで本当は入ってほしいのですけれども、そういうふうな形で、もともとの6つの機能に少し文言を補う形で、タイトルだけ入れるというのが一番わかりやすいような気がするのですが、いかがでしょう。

○西座長 まず、「機能」の中でよろしいですか。観光というものは、私はここに出てくるような機能を幾つか含んでいると思うのですよ、もともと。だから、この中に観光を入れるとややこしくなってくる。

○千葉委員 ややこしくなりますよね。でも、観光という言葉ではなく、例えば、ツーリズムとか、そういうふうな表現というのは1つあるのかなとは思っています。

○西座長 それは、どこか後で、運営とかどこかできちんと観光ということを行わなければいけないと思うのですけれども。観光の中には、レクリエーションの機能もあれば、何とかの機能もあるという形になってくるので、複雑になるかと思います。

○池邊委員 今、問題になっている29ページの図なのですけれども、もうちょっと明確にしたほうがいいと思うのですね。調査・研究が基盤だということで、確固たる根っこを張らないと幹ができないという感じで、その幹というのがまさにこの、これだけだと何か収集して、飼育して、繁殖するという、血流のようにそういうものができて、それが展示・空間演出という部分を通して、まさに結実するところは花と実という感じで、これだと上に「空間演出」という葉っぱのところは白く抜けているのですけれども、多分そういうものを収集、飼育、繁殖の部分をもっと展示・空間演出というフィルターを通して、機能を通してサービス提供することによって、学習・体験とレクリエーション。一方で、あと環境保全のほうなのですけれども。今、結実するということで、まさに花と実のところはこれ、例えば両方とも赤になって、展示・空間演出というフィルターというか、そこをスルーして、花が開いているという血脈みたい葉の動脈みたいな、何かそこら辺が確固たる——多分これ、白黒にしても大丈夫なように、少し。これだと本当に、これがないとわからないので、何かその確固たる基盤と、それがきちんと順を追って収集、飼育、繁殖というものをあれして、それを演出する。それによって、花と実がきちんとできるのだということがわかるような、矢印なのかわからないのですけれども、そこら辺を入れていただいて、白黒でもわかるようなものにしたほうがいいのではないかと思います。

○西座長 この図は難しいね。難しいけれども、「葉」が「展示」というよりも、「花」が「展示」ですよ、感覚的に。何遍も考えるけれども同じ。「学習・体験」と「展示」というのは、近いですよ。「学習・体験」と「展示」が「花」で、今「幹」となっている「収集・繁殖・飼育」というのは、「葉」まで行くのですよね。特に、飼育とかそういうものはね。

○池邊委員 枝側ですね。

○西座長 植物の機能と、水族館の機能というのを考え合わせると。「実」としては、「レクリエーション」と「環境への貢献」と。そうでないと、「学習・体験」と「レクリエーション」が一緒にあるというのは、ちょっと。「学習・体験」とは「展示」が一緒になる。「レクリエーション」と「環境への貢献」が一緒になると。何度もあれで申しわけないけれども、もう少し考えてみてください。

○木下副座長 それで、この青と赤は、別に色分けしなくていいでしょう。もし色分けするならば、「花」と「実」を赤とか。「花」が赤でいいと思いますけれども。

○海津委員 前回私欠席してしまったのでこの図についてコメントを控えていたのですけれども、水族館で植物はどうなのかなという。花はやがて朽ちて散り、そして実は地面に落ちて栄養分になるという、そういうサイクルですよ。そこまで含めているのかなと、思ったりもしました。

無理やり植物というか、木に例える必要はないのではないかと思います、先ほどからお聞き

しながら思っておりまして、むしろ、この6つの関係がどうなのかということを中心に、もうこの知恵でいいので、描いて説明をするというシンプルな方法もありではないかなということをおもいました。実と花が一緒にあるということも変な感じもいたしますということです。

それともう1つ、先ほどから言っていたのですけれども、4つが6つになったということの、この4がどういうふうに6になっているかという説明と、それからその過程で何がどう外から加わっているのかというところが、備えるべき機能の6つ並んだ後に、これは説明文としてあったほうがいいというふうに思います。

○千葉委員 6つの機能というふうに、6つですので、ここに5個、この絵にこだわっているのですが、ここしかない。私「千葉千枝子」で「枝」、枝というのがいっぱいなくて葉はいっぱいないので、そのように命名を親から受けているのですが。「枝」というのを入れて、6つにカテゴリーを分けてしまったほうがわかりやすいのではないかと思います。

○佐藤委員 今の話も重要かもしれませんが、これ議論をしてもみんなが納得するものには、多分この場では絶対できないと思うので。私はこれ委員長に一任したいと思うのですけれども、もしほかの皆さん方がよろしければ。

（「異議なし」の声あり）

○西座長 では、責任重大ですけれども。

○佐藤委員 続けていいですか。3の「各機能における取組」に入ってもよろしかったのですよね。数字の3番ですね。今のこの根っこの部分の「調査・研究」のところ、思い切りこれ古典的なバイオロジカルといいますか、生き物の調査・研究に偏っていて、今までさんざん議論に出てきた博物館機能的な部分、特に、例えばインタブリテーションの構造がとか、それからさまざまな解説、説明の手法の研究であったり、インターラクティブな取り組みのやり方の研究であったりといったソフトウェアの研究が今全く含まれてなくて、これはこの委員会で語られてきたこととは少しずれていると思うのですね。

恐らく、海と人とのつながりを深めるための新しい展示とか、学習とか体験プログラムの開発に関する研究を行うというのは明記されないといけないと思います。それは、恐らくは、これまでの水族館が意識してきた研究と違う、これまた新しい画期的な視点ではないかと思うので、ぜひ、それを加えていただきたいと私は思います。

そういうふうに考えますと、後ろから3つ目の「・」、ページ一番下から2つ目の「調査・研究成果を、飼育・繁殖や展示等に活かすべきである」と、これは当たり前過ぎて、恐らく要らない。当然幹としてこれを描いている以上、そういうものであるから、この文言は全く不要だろうと思いますし、まさに博物館的な部分での研究、博物館学的な研究という議論があったと思うのですが、その部分をむしろ強調して、トップに持ってくるような書き方のほうがいいのではないかと思います。

ついでに、そうすると、連携する先の中にも、実際に博物館との連携を強化すべきだと

いう最後の「・」、それもぜひ入れていただければと思います。

○池邊委員 小さなことなのですけれども、「展示・空間演出」の4。

○西座長 何ページですか。

○池邊委員 30ページの4つ目の「・」のところですが、最後のところ「生き物や生息環境の美しさや臨場感等が感じられる展示」というふうに書いてあるのですけれども、ここに感じられる例えばエンターテイメント性みたいなのが入れられると、ストーリー性とかメッセージ性とかも含めたもの、臨場感と美しさだけでもいいのですけれども、エンターテイメント性みたいなが入ると、先ほどのそういう部分も調査・研究で博物館学として、どういうふうガイドして、どういうふうに見せるとそういうものが得られるかということも含めて研究していただくということにつながるのではないかなと思います。

○西座長 ほかにはいかがでしょうか。

○小林委員 先ほどの「調査・研究」のところ佐藤委員がおっしゃられたことに加えて、もしも展示ですとかインタープリテーション、プログラム開発についての研究を課題とするのであれば、マーケティング、広報、観光振興等についての研究というのを入れると、非常に今日的かなと思います。

○海津委員 ありがとうございます。29ページのところ、タイトルが「各機能における取組」とあるのですけれども、例えば、②の「収集・飼育・繁殖」とか見ていきますと、例えば、「環境負荷に配慮した入手を徹底すべきである」とか、「適切な健康管理、栄養管理を行なうべきである」といったようなことで、各機能の取り組みの内容ではなくて、取り組みにおける留意すべき点みたいなことが並んでいるように見えるのですね。そういった内容をここに書いていくということでもいいのか。

ここに配慮点みたいなことを書いていくのであれば、3番のタイトルは「取組」ではなくて、「取組における配慮事項」とか、そういったタイトルになるのかなと思うのですけれども、そのあたりの整合性というか、この辺は何を書くべきなのかということはいかがでしょうか。

○西座長 どちらかという、取り組みのほうをここでは書こうとしたのではなかったでしたか。そうですね。

○小林課長 取り組みとしてまとめていただく前提ではいたのですけれども、ご指摘をいただいておりますとおり、確かに配慮点も含めて、今混在するような形にはなってしまったかもしれないです。

○佐藤委員 混在の要素は確かにあると思うのですが、これ見ようによっては、「何々すべきである」と書いてあるから配慮点に見えるのですが、その前まで実はアクションが書かれています。だから、例えば、「高度の技術力を維持・向上させる」でとめるとアクションになるのですよね。それを具体的にやるのだということですね。そこまで強く宣言するかどうか。この委員会の答申として、これはもうやりなさいと命令にするのか、こういうこ

とをきちんとやるべきだよという、言ってみれば提言をするのかということだとすると、私は後者ではないかなという気がいたします。

○小林委員 私は、配慮すべき点がここに含まれていても、むしろそれがいいのかなと。配慮すべき点までも含まれていることが意味があるのかなというふうにも思って読んでいたのですが、確かにわかりにくくなってはいるのかもしれないのですけれども、ここでそれを取り去ってしまうと、結構救われない部分が出てくるような気がいたします。

○西座長 書く順番とか、あれを整理して、内容と姿勢というか、その両方があってもいいということではいかがでしょうか。

○海津委員 取り組みと書いてあったので、例えばどういう調査・研究をするのかとか、どういうものを収集・繁殖するのかとか、どういう展示をするのだということが書かれているのかなと読んでしまうので、そうしたら、取り組み方ぐらいがタイトルであれば、配慮点が並んでいても違和感はないかなと思います。

○西座長 求められる取り組みはどうですか。「各機能における求められる取り組み」というふうにするとわかりやすいかもしれませんね。

○佐藤委員 「学習・体験」のところに行きたいのですけれども、「・」でいうと5番目のところに、「専門知識を有した経験豊かなスタッフ」という文言が出てくるのですけれども、これがどんな専門知識かというところがはっきりしない。というか、今までの文章の流れを読んでいると、これ生物学の専門知識に見えてしまうのですよ。それは、89年の葛西をつくったときには、私も含めてそういう議論をした記憶がございます。その生物学の専門知識は当時は欠けていたという意識はあったのですが、今ここで議論しているのは生物学に全くとどまらないさまざまな、コミュニケーションであったり、教育であったり、学習であったり、体験プログラムであったり、マーケティングであったりという、そういう極めて多様な分野の専門知識を持つ人たちが必要だということになるのではないかと思いますので、そういうふうな表現がいいのかなと思います。

例えば、さまざまな体験学習や参加型学習とか、体験プログラムや参加型学習の専門知識、経験能力とかいった、そのような人たちが本当は欲しいのではないのでしょうかね。

だから、例えば自然科学における専門知識だけでなくとか、さまざまな体験学習や体験プログラムや参加型学習の専門知識、経験・能力を持つスタッフを配置して、恐らくは、本当に必要なのは魅力的な学習・体験プログラムをきちんと展開することが求められるという話ではないかと思います。

もう1つ気になってしまうのは、最先端の研究が展示に反映されればそれですばらしいかということ、そんなことも全くなくて、最先端の研究が含まれているのはある意味当然であり、それをどう生かすかというところでやはりプログラム開発とかファシリテーションが重要だということを中心に強調しておくべきではないかと思いました。

○西座長 それは、佐藤委員の考えでは、その両方を持った人だと。

○佐藤委員 同一人物が両方持っている必要はないです。

○西座長 はいですね。それは、今は佐藤さんしかいないものね。

○佐藤委員 それは難しいです。そんなことない。私も持っておりません。そういうレアな人はあまり求めないほうがいいと思いますが。

○西座長 そういう部門もということですね。

よろしいですか。

○佐藤委員 恐らく、この新しい水族館で本当に重視すべきなのは、まさに展示を生かした活動を展開できる専門知識だろうと。ですから、展示をつくるところまでの専門知識というのは、ある意味では水族園のスタッフはもう既にかなりしっかり持っていらっしゃるし、これからもどんどん磨き上げていくに違いないのであって、本当に欠けている部分はむしろ後者のほうだろうというふうに思います。

○西座長 ほかにはいかがでしょうか。

○佐藤委員 しつこくて申しわけありません。もう1つ気になることがありました。

6番の「環境保全」のところでやはり一言申し上げておかなければいけないと思うのですけれども。32ページの上から2つ目の「・」、ここは今話が、「私たちの生活」が主語になっていて、つまり一般市民の生活ということになっているのですが、恐らくここは「水族園が」なのではないかというふうに思うのです。つまり、水族園がきちんとした環境保全の対応をすることによって、一般市民の方々がそこを訪問して、自分たちのライフスタイルを変えていくという、そういうふうな話だろうと思いますので。

だから、水族園が海に及ぼす影響を軽減してほしいのですよね。そうすると、「持続性を考慮した調達」の中身がやはり実は非常に大事で、ある意味今の時代、例えば、レストランの食材を持続可能にするだとか、紙を持続可能なものを使うとかいったことは当たり前と言えば当たり前で、水族館だけがやるべきことでも何でもないわけですし、あえてここに出てくる必要はあまりないと思うのですけれども。むしろ本当に大事なものは、展示生物の調達がどれだけ持続可能なものであるかと。だから、これ「調達」という一般名詞ではなくて、「展示生物の持続可能な調達や、その調達地における環境保全活動」ではないかと思うのです。

○西座長 それは、②の中で言っていないですかね。

○佐藤委員 「環境負荷に配慮した入手を徹底すべきである」というふう書いてあります。

○西座長 それとは別に、こっちでも。

○佐藤委員 恐らく、「調達」の部分はどこかに入っているのですよ。「環境負荷に配慮した入手」というのはある意味では抽象的なので、「調達」をきちんと持続可能な形でやるのだというふうに。

というか、もっと言ってしまうと、「環境負荷に配慮した調達」と言ったならば、遠距離から運ぶとかいったことまで含まれてきますので。本当に海の資源に直結した持続可能な調達というやり方は既にございますので、そこのほうまできちんと書いていただきたいと思います。

それからもう1つ言ってしまうと、むしろ僕は、生き物の収集に関しての環境配慮というのは、水族館が果たし得る環境保全への貢献の最たるものの1つだと思いますので、むしろこっちのほうに、環境保全の貢献のほうに持ってきたほうがいいのではないかというふうにも思います。

○西座長 両方に。

○佐藤委員 両方に入ってもいいですか。

○西座長 言葉を変えるとか何かして。

○佐藤委員 ぜひ、そこは強調していただきたいと思います。

○西座長 配慮のほうに全くそういう要素がなかったから、少しそのことを入れると。

ほかにいかがでしょうか。

○鳩貝委員 私は、今までの皆さんの議論、提案がきれいに整理されてあるし、今のお話を伺って、調査・研究のところなどが、ああいう新しい視点が入ることが大事だなと思って、特にこうしなければならないという意見なしで、いいものができるのだなと思って聞いておりました。

1つだけ、本当に、また重箱の隅のお話で申しわけないのですけれども、30ページのところの、②の4つ目の「・」で、「体制（獣医の配置等）」とあるのですが、これ「獣医師」にしないとまずいと。資格として「獣医師」です。獣医師さんから、私、何度か指摘を受けて、「我々は獣医ではない、獣医師だ」と。

○西座長 では、4番の「運営について」から。大分疲れてきましたけれども、よろしくをお願いします。

○小林委員 「利用者増加の視点」のところの4つ目の「・」で、「友の会の組織」についてなのですが、これたしか私が申し上げて入れていただいた事項なのですけれども。えてして、友の会の会員の方は、「私は友の会の会員なのだから、特別サービスを提供してもらわないと困る」という圧力団体になることが多くございまして、些末なことなのですけれども、「特別なサービスを提供する等」とあまり書かないほうがいいかなとは思いますが。本当に些末なことなのですが、「友の会を組織し、長く親しんでもらうためのサービスやプログラムを検討すべきである」ぐらいにしてもよいのかなと。決して無理をした特別なサービスをする必要はなくて、いかに友好関係を保つかということが友の会の重要な点だと思いますので、そこは誤解のないように整理されたらいかがでしょうか。

それから、次の「・」の生き物の新たな魅力を発掘と、解説スタッフの育成についてなのですけれども、こちらについては、むしろ展示ですとか学習体験のほうにほぼ同じことが入っているので、ここであえて挙げる必要があるのかなと、私は疑問に思いました。以上です。

○千葉委員 友の会の2つ下でございまして。「昼夜問わず、水族館でしかできない体験プログラムを提供し」だと思うのですが、このところ、その後「インバウンド誘致」と「昼夜問わず」は、全く別個なる文章にされたほうがきつといいと思います。

よくナイトタイムエコノミーとか今言われていますけれども、「昼夜問わず」という言葉がいいのかどうかもありますけれども、そう思います。以上です。

○佐藤委員 33ページの「経営の視点」のところで、下から2つ目の「・」に「ボランティア」が出てまいりまして、これよりも前にほとんどボランティアというものが言及されていないように思うのですよ。友の会というものは出てくるのですね。

ボランティアというものが、単なる友の会ではなくて、水族園の中で、水族園のスタッフと一緒にあって、協働して新しい展示をつくり出したり、新しい考え方や提案をしていったりという、非常に能動的な役割を持ち得るのだという議論はこの委員会でもあったと思いますので、その辺が、恐らく利用者増加の視点だけではないし、単なるサービスの質の向上だけではないのですよね。恐らくは、どこに入るべきなのかな。運営ではないかもしれませぬ。

○千葉委員 しかも、経営ではないですね。

○佐藤委員 展示や空間演出、あるいは教育などといったところで、例えば「スタッフとボランティアが協働して」とかいった言葉が入ってきてくれていると、最後にこれが出てきてもそんなに違和感はないかなという気がいたします。

○西座長 そうしたら、31ページの④「学習・体験」プログラム活動の、最後の「専門家の支援や育成に取り組むべきである」というようなところに、効果的なあれを進めるために、「ボランティアの協力を得る」とか、「ボランティアと協力して進める」とか、そういう言葉があるといいかと思えます。

○海津委員 今のところにつながるような部分を見ながら考えていたのですけれども、経営でいいのかなと私は思っております。というのは、ボランティアだとか、いろいろな方が来るということによって、水族館として将来の担い手が育つという役割がともあると思いますので、そうするとこの持続的な経営と考えたときに、ファンがそのまま新しいスタッフになっていくというような道を残しておいてもいいのかなというふうに思いました。

それと、先ほど千葉先生がご指摘になったところの「インバウンド誘致」、私はここにとっても違和感を感じておりました。その1つ上の行に、32ページの真ん中辺なのですけれども、1つ上に「思わず行ってみたくなるサービスを工夫すべきである」。思わずではなくて、行ってみたくなるでないといけないだろうと思ひまして。それがむしろインバウンド誘致というところに、その後に「行ってみたくなるサービス」というのがつながると、「思わず」はとるということではどうかなということをおもいました。以上です。

○西座長 「経営の視点」の3つ目の「・」、赤で書いてあるところの下のほうですけれども、「利用者サービスに応じた利用料金を設定すべきである」とちょっと弱いので、「新たな利用料金を」のほうで明確になるだろうと思ひます。

○千葉委員 重複しますけれども、ここの「経営の視点」にボランティアではないけれども、何度も言って申しわけないです。志願兵とかそういうのが語源にあるのだと思うので、

ここを「スタッフ」とかですよ。そういうふうなところで、ここを変えたほうがよろしいかと思います。

○西座長 今のは。

○千葉委員 33ページの(4)番、「経営の視点」の下から2つ目の「・」です。「サービスの質の向上につながるように、ボランティアがやりがいを持ち」というのは、経営する側の立場から、ボランティアがやりがいを持つことが経営の視点で重要なのかというところで、ここは、もしかしたら「スタッフ」とか、別な言葉が相当すると思います。

ボランティアというのは志願兵というのが語源になっているので、志願する、無償も有償も含めてボランティアですので、言葉が経営の視点のところのほうに入るのはおかしいのかなと思いました。

○西座長 よろしいですか。ほかにはいかがでしょうか。

○千葉委員 もう1個、34ページの「観覧ルート工夫する等」という、「・」4番目です。前回も私申し上げたような、「観覧ルート」という言葉がいいのかどうかという議論があると思います。「工夫」ではなく、ここ「開発する等」というふうに、「工夫」という言葉を使わないほうがよろしいのかなと思いました。

○佐藤委員 今の議論もすごい重要なポイントだと思うのですが、結局これって観覧ルートというものを設定するということは、お客さんに「こういうふうに歩きなさい」ということを指示したいわけですよ。そうではないと思うのです。お客さんは、もっと空間を自由に利用して、交流し、語り合いというような、そういうふうな作業ができるような空間ではなければならないので、恐らくは、展示空間のデザインを工夫しろということではないのでしょうか。展示空間のデザインを工夫して、混雑緩和につながるだけではなく、さまざまな観客と海の生き物とのつながりが深まるような動線計画。動線計画というのも変ですよ。そんなデザインとすべきであるというふうな形がよろしいのではないかと思います。

○千葉委員 よく観光ではモデルルートといって、上から目線ではなく、モデルですよ、これは1つのケースですよと、こっちから行くと30分で、こっちから来るとあと2時間ですよとかと、博物館などでもそのようにしているのではしたか。モデルルートかなと思いました。

○西座長 大分時間が来たので、最後の「新たな水族園の実現に向けて」というところを検討していただければと思います。

○佐藤委員 2番目の「・」の、現在の建物が老朽化していて新しい水族館をつくりなさいというのと、それから4番目の「・」の、あの建物は大事だから、何か別の要素に使えるというのはセットのように見えるので、これ2つ一緒にしてもよろしいのではないかと思います。つまり、持続的な建物で再生するために水族館を建てかえると。なお、透明感のある景観を生み出している現在の建物は、水族館以外の利活用の可能性を検討すべきだというふうにしたほうが、これ2つに分ける必要はなく、むしろすっきりするのではないか

と思います。

○小林委員 この文章の中で、私は、最初から2行目なのですが、**「持続可能な社会に向けた私たちの認識を変えることも必要になる」**と。この**「認識」**という言葉はこれでもいいのかなというのが最初に読んだときにすごくひっかかったのですが、これはいかがですかね。例えば、姿勢だったり、ライフスタイルだったり、行動だったり、そういうことなのかなと思うのですが、いかがでしょうか。

○西座長 そこまでいくほうがいいですね。

○海津委員 「・」の3番目なのですが、**「アクセシビリティ」「アプローチ」**が出てきて、その先の続きで、**「ランドスケープ」**のことが出てきているのですが、**アクセシビリティ**のことと**ランドスケープ**のことというのは違うテーマだと思いますので、リニューアルの際にという、先ほど一緒にしましょうとありましたけれども、むしろ後半はそちらにつけていったほうがよいと思います。

上から2行の部分と、後半の**ランドスケープ**を考えたリニューアルというのは違うことなので、ここは分けたほうがよいというふうに思います。

○西座長 よろしいでしょうか。

あと、その次の、**「展示水槽のイメージ」**、これは1例として挙げるという形になっていますので、前回とあまり変わっていないところはない。

○佐藤委員 ここ、どうしても気になることが1つありまして、2点だけお願いします。

「展示水槽のイメージ」の②番の**展示水槽**の概念なのですが、3つ目の**「・」**に、**「生態展示」と「行動展示」**という言葉が、これもある意味初めて報告書で出てくる言葉でして、これ以前は**「生態系」**という単語を使っていると思うのですね。恐らくこれ、**生息地の環境や生態系を伝える「生態系展示」というふう**に一言で済ませていただくと、**「生態系展示」**の中には**生き物の生態も行動も全て含まれるはず**ですので、そういう**「生態系展示」**でないといけない。格好だけ**生態系**ではなくて、きちんと**生き物**がその中で**生き生きと生き、行動しているような生態系展示**にしてほしいわけですから、ここは**「生態系展示」という一言で、「生き物の自然の生態や行動を引き出すことを目的とする『生態系展示』を目指すものとする」というふう**に書きかえていただけたらよいかなと思います。

○西座長 **「行動展示」というのが、「生態系」というのは生き物のつながりが中心**になりますよね。行動って種類ごとの動きであって、それだけを見せるということもあるのですよね。

○佐藤委員 よくわかりますけれども、恐らく私がここでイメージしている**生態系展示**の中には、例えば、**ホンソメワケベラ**がいれば、きちんと**クリーニング**をしているというのが典型的な例なのですが、それをむしろその**生態系**の大きな枠の中からきちんと切り出して見ていただけるような解説をすべきだと思うのです。

だから、先日申し上げました**水槽の大型化**みたいなものの方向性を堅持して、**生態系展示**で、**行動もそこには含まれています**という形がよいのではないかと思うのですが。もちろん

ん「行動展示」という言葉が残っても一向に構いません。その場合には、「生態系展示」にしてください。「生態展示」だけではないと。

○西座長 非常に小さなもので、それに焦点を当てたような展示とか、そういうものがあると思うので、「行動展示」も生かしてもらおうほうがいいかなと思います。

○佐藤委員 わかりました。

それから、その「生態系展示」の発想で、次の「展示水槽の構成」を見ていくと、きょとんとせざるを得ないのが「海の多様な生態」という部分でして、これ最後にくっついていて、前回はたしか「その他」にあったと思うのですけれども、それがこういうタイトルになると、やはり少し違和感があります。

まず、前提から言いますと、それ以前のもは見事にそれぞれがタイトルが生態系でして、だからここも、もしあえてカテゴライズするとしたら、「海の多様な生態系」なのだと思うのですよ。そうすると、生態系展示として一番よくはまっているのが極地で、これが南極だ、北極という非常に特殊な生態系を扱いますよということは非常にクリアなのですが、鳥が浮くのです。鳥さんは恐らくここにこれをどうしても入れなければいけないのであろうと。つまり、この水族館から鳥類をなくすということは選択肢の中には恐らくほとんどないのではないかと思いますので、ブーストック計画なども含めまして。そういうことであれば、もしかしたらこのタイトルは、鳥に関して言うと、これは全く別建てにして、恐らくは海と空と陸をつなぐという生き物だという立ち位置で、そのようなタイトルがいいのかなと。海と空と陸をつなぐとかですね。またぐでも。そういうふうなタイトルで、要するに非常にグローバルに見た3つの生態系、陸上生態系と海洋生態系と空中の生態系を結ぶ存在だという、そういうふうな位置づけで入れると、生態系展示の枠組みにはまるということと。

もう1点これは、やはりどうしても指摘をしておきたいのですけれども、極地を入れることは生態系展示としては美しいのですが、このコストはとんでもないと思います。今後この施設の持続可能性を考えたときに、本当に極地の水槽というものを採集も含めて、私自身も南極の採集には思い入れはあるのですけれども、それにしても本当にそれを続けるべきかというのはやはり今後の検討課題ではないかと思います。

ただし、もし本当に魅力的な極地の生態系展示ができれば、それはすばらしいのは間違いない。ですから、その両者の兼ね合いの中で、展示にかかわる採集費用と、冷たい水槽を維持するというそのコストをどのように考えるかということ、ぜひ、今後の課題として持っておいてください。

○西座長 展示水槽の構成について、今言われたところを検討してください。

○佐藤委員 もう一言ありました。極地って本当に日本の水族館がやるべきことでしょうか。

○西座長 それはまた今後の課題にしましょう。

○佐藤委員 一言だけ。

○西座長 ただ、葛西が持っている、ほかにないという意味では、あってもいいのではないかなという気がしますが、今おっしゃるような点はあるのかなと思います。

○木下副座長 この「展示水槽のイメージ」というところが、番号なり何かつけないと、この報告書の中で、位置づけがすごく曖昧ですので、参考というようなことでもいいとは思いますが、何か必要だと思います。

○西座長 私もそう思いました。

時間が大分迫ってきたので、最後の終わりにと。

○佐藤委員 もう1つだけよろしいでしょうか。違和感があったのが展示水槽の39ページのサンゴ礁の例で、「展示、飼育の目的」の頭に、「命の尊さ、すばらしさを体感する」というのが出てきて、これは全ての水槽に共通するはずで、サンゴ礁に特殊な話ではないです。ですので、これはここに来るべきではない。むしろサンゴ礁で本当に大事なポイントというのがサンゴ礁の魅力だと思いますね。

○西座長 ありがとうございます。

では、「おわりに」の文章はいかがでしょうか。

○小林委員 単純な文章上の問題です。4パラグラフの、「例えば、人が及ぼす海洋環境の現状を伝えるため」、これ例えば「海洋環境に人が及ぼす影響の現状」とかなのですかね。ここを再考いただければと思います。

○西座長 海洋環境に人が及ぼす現状を伝えるためと。

○千葉委員 間違っていないと思いますけれども、上から3行目の「委員からは」の、「公園施設に止まらない」は、書留の「留」のほうがニュアンスがいいのかなと思ったのですが、どうでしょうか。

○鳩貝委員 私は、ここの「調査・研究の機能は」の最初のところで、こういうふうを書いてもらえたのが非常にうれしいなと思います。私が研究していることでもあり、水族園が水族園だけにとどまらないということはすごく大事だと思いますので、こういうことが書かれていて、今後期待できるなというふうに思っております。

○海津委員 とても味わい深い文章だなと拝見しておりました。上のパラグラフの5行目のところに「ムーンショット」が出てきているのですが、ここはその読みは「ムーンショット、」でとまっています、その次に「困難でも」と続くのですが、ムーンショット、多分これはここにいるメンバーはわかるのですが、ほかの方はわからないのですね。それについて補足をすることが必要かと思います。「困難でも実現により」というこの「により」が、「実現できれば」という言い方のほうがその後わかりやすいかなと思いました。

それから、2つ目のパラグラフ以降、とんとんとと続いているのですが、ここが全体文章の中でどういう位置づけなのかなということ。①、②、③のようなつもりでこういうふうに出しがない、字をお下げになっているのでしょうか。そこがはっきりすればすっきりするので、通常文章だと、頭1行は下げますが、2行目か

らは前へ出るので、作文的にはこの書き方をするとだめな書き方になっているかなと思っておきまして、そこら辺を指摘させていただきます。

○西座長 いかがですか。

○小林課長 単純に下げてしまって書いたので、ここは修正をさせていただきます。

○佐藤委員 細かなことなのですが、下から2つ目の、本当はかなり先鋭的な展示の提案の部分なのですけれども、今若干文章がわかりにくくて。まず、「また」以降ですけれども、「水槽の数は幾つかに絞りつつ、生態系を再現できる必要規模を確保し」の後に続くのは、恐らくその2行下の「海や川の風景そのままを切り取った展示を目指すことが考えられる」といった形で1回文章を切ったらいかがでしょうか。その後は、今度はまさに体験型的水槽にするという、これまた非常に先鋭的な話なので、「また」と、シュノーケリング体験、植えつけ体験、調査・採集体験を行えるような、体験型的水槽と呼ぶか展示と呼ぶかはともかくとして、展示でしょうね。体験型の展示など、これまでに類のない水槽を有する水族館となってほしいと言いたいところです。「も考えられる」ではなくて。

「海藻を見上げられる水槽」というのも、まさに前の部分の、「海や川の風景そのままを切り取った」という文章の中に含めることができると思います。

○木下副座長 その上のところなのですが、先ほど「海洋環境に人が及ぼす現状を伝えるため」というふうに修正意見が出ましたが、その後、ちょっと何かわかりにくくて、「地球温暖化による影響が大きい、海で暮らす生き物の展示」という、影響が大きい海で暮らす生き物の展示ですか。

○佐藤委員 具体的にはシロクマだと思うのですけれども。北極洋にいる、まさに影響を受けている。

○小林委員 最初はあったんですよね、アザラシ、シロクマが。

○木下副座長 要するに海洋環境の変化を伝えるために、これだけでいいのかという感じもして。例えば、「海洋汚染などの展示も考えられます」とか、もうちょっと何か加えてもいいのかなというふうに思いました。

○池邊委員 最後の1文なのですけれども、なぜ、公営で東京都がつくるかというところにつながるので、「世界をリードし、都民が誇れる水族館」という感じで、多分、上野公園などは都民の人としてはパンダや何かも来て、あるということが非常に浸透していると思うのですけれども、葛西臨海の場合には、都民にそれが財産としてあるという認識がまだまだ少ないので、それが海洋国家としてあるということが、都民が誇れるということが一言あったほうがいいかなと思いました。

○西座長 よろしいですかね。

それでは、そろそろ東京都に報告する報告書の取りまとめ方を確認したいと思います。

本日のご意見、ご指摘について、事務局にて報告書案を修正の上、委員の皆様を確認していただくという方向でまとめたいと思いますが、いかがでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

○小林課長 報告書案を事務局で修正をさせていただいて、委員の皆様にご確認をいただきました後なのですけれども、最終的に座長に一任いただくという形でまとめさせていただきたいと思うのですが、よろしいでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

○西座長 事務局からの提案がありましたので、責任重大ですが、報告書は私のほうで、できるだけ皆様のご意向を含んでまとめさせていただきたいと思います。よろしく願いします。

○小林課長 もう1つよろしいでしょうか。こちらの要旨としてまとめさせていただきました資料の扱いなのですけれども、報告書とあわせて、こちらの内容も公表させていただくというやり方がいかがかと思っているのですが。

○西座長 もう一度。これを？

○小林課長 報告書とあわせまして、こちらの要旨も一緒に公表させていただくというやり方がいかがかと思ったのですけれども。

○西座長 公表するということ。だから、それもこれを確認しなければいけないということですね。よろしいでしょうか。

○佐藤委員 報告書を全文読む人は極めてまれに違いなくて、要旨は非常に大事だと思いますので、ぜひこれもあわせて公表していただきたいのですが。きょうの議論を受けて修正すべき点が出ているはずでして、それをやっていただいて、委員に1回話していただくというやり方が一番妥当だと思います。

○西座長 それでは、そのように取りまとめていただきたいと思います。

最後に、事務局に確認したいことがあるのですが、今後、委員会としてはきょうで終わりになるのですが、どのように進めていかれるのか、皆さんにお知らせいただきたいと思っています。

○小林課長 今後でございますけれども、まず報告書でございますが、本日も大変たくさんのご意見、ご指導いただきまして、とても充実した報告書としてまとめられるかとは思うのですが、修正のお時間をまずいただければと思います。ただ、できるだけ時間をあけずに公表ができればと思ってございますが、8月中の公表を目指せばというところで、この後、作業をさせていただこうと思ってございます。先生方にもまたご連絡をさせていただきまして、いろいろと修正点が出そうなもので、お時間をいただけるようでしたらば、一度お伺いさせていただいて確認をさせていただくというやり方をとらせていただければと思います。

そして、その後でございますけれども、報告書を踏まえまして、東京都として方向性をしっかりと定めて、実現に向けた具体的な検討に入っていくというふうに考えてございます。

○西座長 ぜひ、実現に向けて、最大限の努力をお願いします。その結果を、また委員のほうにも進捗状況を教えていただければありがたいと思います。

○小林課長 はい、承知いたしました。

○西座長 何かご意見、最後にありますか。よろしいでしょうか。何か、一言。

○佐藤委員 この委員会を通じて、私、本当に事務局のお二人のKさんのご努力がなければ、これはもう間違ってもここまで私たちは来られなかったと思っております、やはり改めてここで小林さん、小石さんに心から御礼を申し上げたいと思います。

○西座長 それでは、事務局のほうにお返しします。

○小林課長 西座長、委員の皆様、大変ありがとうございました。

それでは、建設局公園緑地部長日浦より、一言ご挨拶を申し上げます。

○日浦部長 日浦でございます。西座長を初め、委員の皆様におかれましては、昨年の12月から葛西臨海水族園の今後のあり方について、本当に熱心にご検討をいただきましてまことにありがとうございました。

約半年間という短い期間であったにもかかわらず、大変充実した議論を行っていただきまして、葛西臨海水族園の今後のあり方をお示しく下さいましたこと、本当に心より感謝を申し上げます。

今後のことですが、先ほど座長からお言葉ありましたけれども、実現に向けて最大限の努力ということなので、この報告書を十分に踏まえまして、葛西臨海水族園のアウトラインをしっかりと描いて、具体の計画に落とし込むと、次の段階へと進めていきたいと考えております。引き続き葛西臨海水族園が水族館のトップランナーであるとともに、本当に先ほどの議論でもございましたように都民の財産、そういったところもしっかりと踏まえて、またこれからも多くの方々に親しまれる都立水族館として発展していくため、引き続き、皆様方、ご指導、ご鞭撻、よろしくお願いをいたしたいと思います。

簡単ではございますが、これをもちまして挨拶とさせていただきます。本当にどうもありがとうございました。

○小林課長 ありがとうございました。

それでは、以上をもちまして、葛西臨海水族園のあり方検討会を終了いたします。皆様、本当にありがとうございました。

(午後4時45分終了)